

コロナ禍の下での音楽とオーディオの活動

コロナ禍の下での音楽とオーディオの活動を振り返ってみます。

コロナの感染が始まって以来、コンサートは3月から7月まですべてキャンセルとなり、試聴会その他のオーディオの催しもなく、オーディオ仲間の集まりも2月初旬が最後でした。

では、この間どうやって音楽とオーディオの活動を行ってきたかという、まず、コンサートの代わりには配信を楽しんできました。3月以来、[ベルリンフィルデジタルコンサートホール](#)と [OTTAVA TV によるウイーン国立歌劇場](#)の無料配信を視聴してきました。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールは、当初はアーカイブの無料公開でしたが、最近では、編成を減らしたアンサンブル形式のオリジナルプログラムが公開されています。

ウイーン国立歌劇場に関しては、これほどオペラを集中的に視聴したことはこれまでにありません。最近では歌曲やオペラアリア集のオリジナルプログラムも公開されています。

これらは、3月以来、継続的に[研究室日誌](#)で報告してきています。

急遽取りやめになったコンサートの無観客コンサートの無料公開もありました。東京春祭がそれで[3月15日の研究室日誌](#)と[3月16日の研究室日誌](#)で報告しています。

会員になっている兵庫県立芸術文化センターも、HPAC すみれの花咲く頃プロジェクトを立ち上げ、すみれの花のコーラスや器楽合奏の動画を公開していることは[5月28日の研究室日誌](#)で紹介しています。

さらに、兵庫県立芸術文化センターの公演再開に向けた取り組みとライブ演奏の公開があり、[6月20日の研究室日誌](#)で紹介しました。指揮者の佐渡裕と下野竜也に加えて、ヴァイオリニストの川久保賜紀もリモート参加での鼎談があり、コロナの自粛の間、どのように過ごしていたかとか、演奏再開に向けてどのような対策を採っていくかの話がありました。詳細はオーディオ実験室のページで紹介いたします。

以上は、クラシック関係の配信ですが、秋葉原のオーディオショップのオリオスペックは、5月25日にスタートした井筒香奈江『Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio』のハイレゾ配信を記念して、イベントの配信を行い、[6月6日の研究室日誌](#)で紹介しました。それぞれの立場からの思いや苦労話が聞け、オーディオジャーナリズムの記事では得られない、アーティストやエンジニアとの距離感を近づけることができました。ここで紹介された Direct Cutting 盤を運よく購入できましたので、ディスコグラフィーのページと試聴会・訪問記のページで紹介いたします。

さらに、ジャズライブ 2 件の配信を視聴しました。大西順子トリオの無観客公演は [6 月 8 日の研究室日誌](#)で、また Tokyo Basement Jazz Sessions vol1 Boys の無観客公演は [6 月 17 日の研究室日誌](#)で報告しています。

無観客ライブについては、後日大西順子が、演奏する立場から感想を述べています。

<https://www.phileweb.com/interview/article/202006/24/755.html>

こういった配信のおかげで、アーティストとの距離感が縮まり、それぞれの地域や音楽ジャンル毎の文化の多様性に触れられるメリットがあります。これらのライブ配信の模様については、オーディオ実験室のページで順次報告いたしますが、配信を通じてアーティストやホールやライブハウス、スタジオ、音楽事務所なども苦難の時代であることが分ります。今後は新しい活動形態を模索し、頑張っしてほしいものです。

一方、オーディオ仲間の集まりは Zoom によるオーディオ仲間の遠隔ミーティングとして実施し、[5 月 27 日の研究室日誌](#)と [6 月 7 日の研究室日誌](#)で紹介しています。これ以外にも Zoom における音楽信号の共有も行い、その限界についても調べましたので、オーディオ実験室のページで報告いたします。今後、ミーティングソフトと圧縮技術などを活用した音声信号共有ソフトがセットになれば、仲間同士のオーディオ活動の情報共有に役立つことが期待されます。

当面、コンサートやオーディオの催し参加も望めないで、新しい活動の形態を模索していく予定です。

以上